

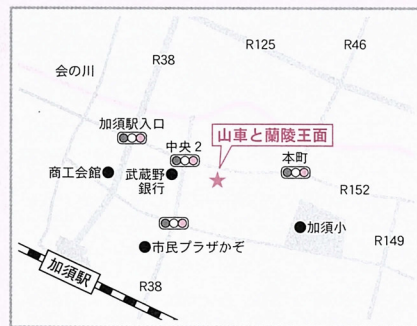
ご存じですか！文化財

「山車と蘭陵王面」

②

市指定有形民俗文化財
昭和47年6月17日指定

問合せ 生涯学習課
(☎内線352)



所在地 本町7-17
本町町内会所有

車「清水の山車」と呼ばれています。

この山車の一番の魅力は、「織田信長人形の衣装や緞帳」です。平成15年に開催された「江戸開府400年記念事業」に参加した際にも、一般的な刺繍による装飾でなく、京都や高山で作成された山車に特有の、織物による緞帳であることが高く評価されています。

重厚な太絹糸地に天然染料で着色された、火焰太鼓を大きく配した図柄や、金糸・銀糸を惜しみなく用いた装飾からは、長い年月を経た現在でも「江戸時代の人々の、祭りに対する心意気」を感じることできる、素晴らしい文化財です。



組み立てられた山車

紹介者 長谷川 廣さん(中央2)

今回ご紹介する文化財は、加須市本町町内会が所有する「山車と蘭陵王面」です。この山車は、江戸時代末期の文久2(1862)年に、名人と言われた「法橋 仲秀英」によって制作されました。当時、この山車は旧日本橋区の通油町(現在の中央区日本橋大伝馬町地内)、新大坂町(天伝馬町と日本橋富沢町の一部)、田所町(日本橋堀留町二丁目の一部)の3町が共同で作成し、明治16(1883)年に加須町の清水善兵衛の仲介により加須町の本町町内会に売却されました。そのため、当時から「本町の本山